

地域包括ケア病棟で活躍する医師・歯科医師

地域包括ケア病棟は、暮らしに一番近い入院機能として、「3つの受け入れ機能(ポストアキュート、サブアキュート、周辺機能)と2段階の在宅・生活復帰支援機能(院内・地域内多職種協働)」の4つの機能を活かし、地域包括ケアシステムを構築・活性化する。そのために必要になるのは、医師・歯科医師が、これまでにない幅広い分野で能力を発揮することである。

例えば、診療においては、医科歯科ともに、リハビリテーション(移動、摂食、排泄、清潔等のIADL)、栄養管理、認知症対応、薬剤管理・減薬調整、感染対策、医療安全対策、疾病予防等、多岐にわたる分野に精通した総合力が必要になる。その上で、医科においては、内科・外科・救急・在宅を基礎にした総合診療が、歯科においては、歯形態回復と口腔機能回復、摂食・嚥下、栄養サポートを基礎にした、幅広い口腔総合診療が求められる。

また、院内・地域内において、フォーマル・インフォーマルサービスを提供する方々とチームを編制して協働するためには、診療の技術力だけでなく、包容力や調整能力、社会資本の活用・経営への貢献も見据えた企画力等の人間力も求められる。

以上の能力は、医師・歯科医師が個人で総合診療能力として獲得することが理想だが、医師のチーム、歯科医師のチーム、医師・歯科医師のチームといったチームで創り上げることが現実的であろう。なお常勤・非常勤の勤務形態にはこだわらない。

地域包括ケア病棟で活躍する医師・歯科医師(チーム)像

1、診療の場や提供する医療、患者層、抱える問題の多様性に対応する

- ・外来、急性期-回復期病床機能、1-2次救急、在宅療養支援・後方支援、訪問診療等
- ・臨床推論、医科総合診療、歯科総合診療、全人的医療、家庭医療等
- ・BLS/ICLS、JPTEC/JATEC、緩和ケア、看取り、EBM、ナラティブアプローチ等
- ・保健・予防、プライマリケア、インテンシブケア、病床機能、セルフケア等
- ・治す「従来型医療」:小児～高齢者等
- ・治し支える「生活支援型医療」:障害児・者、難病患者、がん患者、フレイル、要介護者、老年症候群

2、院内チーム医療(院内多職種協働)を活性化する

- ・医師、歯科医師、看護師、薬剤師、リハビリ療法士、介護福祉士、管理栄養士、歯科衛生士、MSW、診療情報管理士、医療事務員等との協働
- ・患者家族は医療チームの一員として協働

3、地域包括ケアシステム(地域内多職種協働)を構築する

- ・医介連携、ICTによる地域内関係、保健予防連携、行政との連携、医療介護系団体との連携(医師会、ケアマネ等)、各種団体との連携(市民活動等) 等

地域包括ケア病棟で活躍する医師・歯科医師(チーム)像

4、医療・看護・介護・保健・福祉のフォーマル(公助・共助)・インフォーマル(自助、互助)な社会資本を有効利用する

- ・病院(高度急性期・急性期・回復期・慢性期の入院機能、外来機能)、診療所、介護3施設、訪問系事業所、通所系事業所、居住系施設、居宅介護支援事業所、共生型福祉施設、病児保育施設、地域包括支援センター、保健所、福祉事務所、社会福祉協議会、民生委員、町内会、NPO等

5、医療の質を日常的に改善する

- ・医療安全、感染予防、臨床倫理、診療情報管理等の院内各種委員会・診療科横断的組織の活動への参画
- ・先進医療、臨床指標、クリニカルパス等

6、自ら研究に携わり、院内・地域内の多職種を育成する

- ・学会発表、論文執筆、各種資格取得、研修医を含む多職種の教育、看護師特定行為研修、教育研修活動、地域内研修活動等

7、人間力を発揮する

- ・コミュニケーション能力、コーディネーション能力、企画力、地域や社会を全体的に見る広い視野等

8、経営の質の向上に貢献する

- ・病診連携、病病連携、標準化と効率化、BCP、経営管理、地域経済振興等

地域包括ケア病棟で活躍する医師・歯科医師(チーム)像 (簡易版)

- 1、診療の場や提供する医療、患者層、抱える問題の多様性に対応する
- 2、院内チーム医療(院内多職種協働)を活性化する
- 3、地域包括ケアシステム(地域内多職種協働)を構築する
- 4、医療・看護・介護・保健・福祉のフォーマル(公助・共助)・インフォーマル(自助、互助)な社会資本を有効利用する
- 5、医療の質を日常的に改善する
- 6、自ら研究に携わり、院内・地域内の多職種を育成する
- 7、人間力を発揮する
- 8、経営の質の向上に貢献する